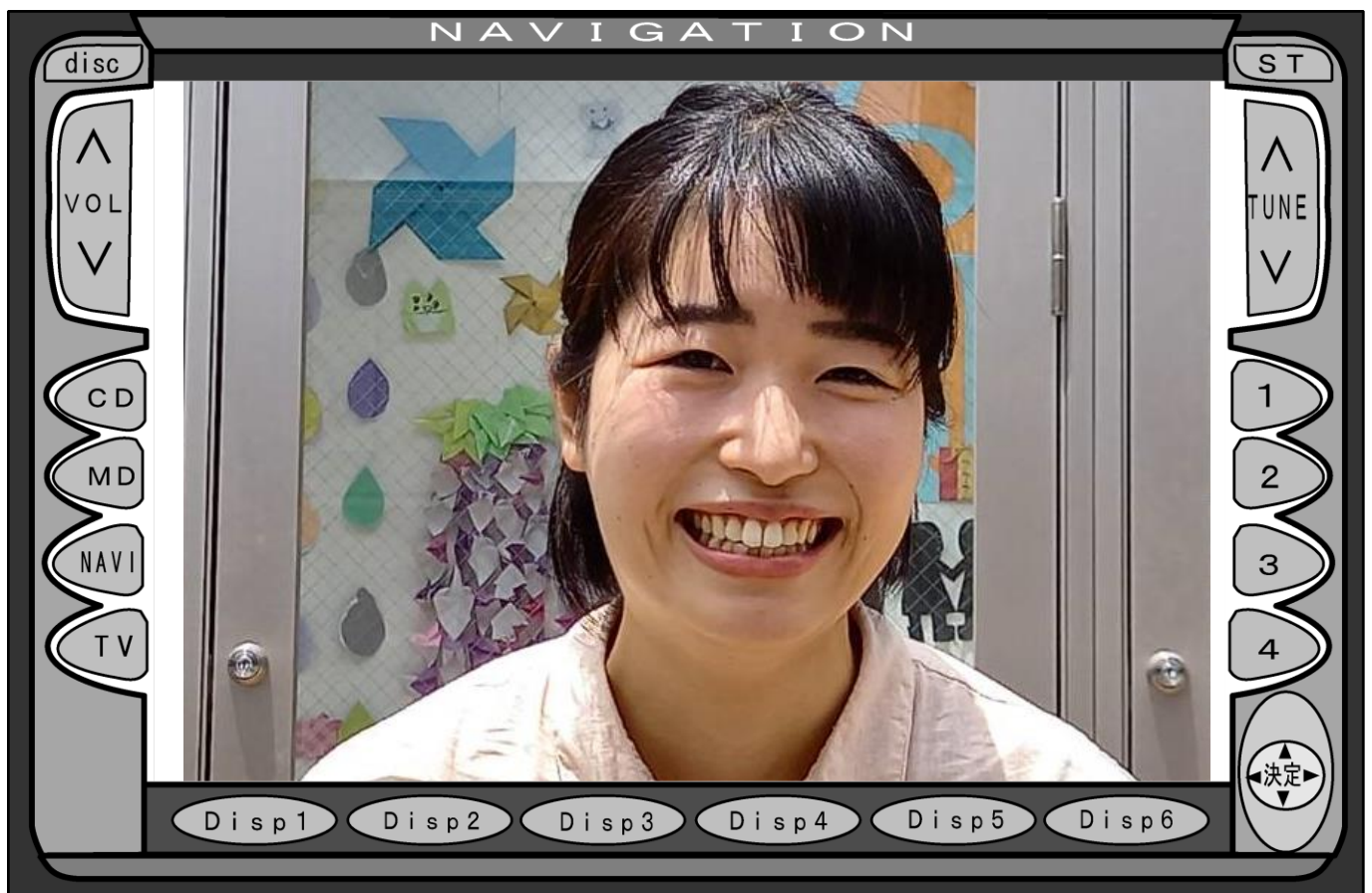


しょうがいしゃ じりつせいかつじょうほう
障害者の自立生活情報ナンバー
No. 70

ナビゲーション

(2022年7月号)

じりつ みちあんない
自立への道案内こんかい きょうりよく さいきももか
今回、インタビューに協力していただいた齊城桃果さんです。

もくじ

- シリーズ いろんなテーマの「なぜ」を解消！NPO法人ちゅうぶ 齊城桃果さん・・・2
- シリーズ ～Sevenメッセージ～精神障害者支援の会HIT 藤川 治彦さん・・・7
- おすすめのお店紹介します～飲食店～ 元祖 豚丼屋 TONTON・・・10
- 編集後記・・・12

シリーズ いろいろなテーマの「なぜ」を解消！

～なぜ、施設は作られ、なくならないのか

なくしていくために必要なことは？～

このコーナーでは教育、施設、交通など各分野に詳しい人にインタビューをしていき、当時の障害者や制度の状況、その制度はどう変わってきたのか？今、取り組んでいること、これからの課題はなにか、など語ってもらうというコーナーです。今回はNPO法人ちゅうぶ（以下：ちゅうぶ）の障害者活動センター赤おにで生活支援員をしている齊城桃果さんにインタビューさせていただきました。齊城さんは、千葉県の高齢者施設で働いていました。施設で働いていた頃のこと、ちゅうぶに関わるきっかけ、施設をなくしていくために大切なことなどをお話してもらいました。

<プロフィール>

名前：齊城桃果（27歳）

所属：NPO法人ちゅうぶ 障害者活動センター 赤おに 生活支援員

趣味：映画、読書、山歩き、喫茶店巡り

～障害者の存在が自然に～

山下：今日は、よろしくお願いします。

齊城：こちらこそ、よろしくお願いします。

山下：施設で働いていた頃のこと、ちゅうぶに来て

からのことなどのお話を聞かせてほしいです。

まずは、ちゅうぶに関わってから

のことを伺いしていきたいと思います。

ちゅうぶに来て障害者と関わる前と関わ

ってからの障害者観は変わってきました

か？

齊城：学生時代の実習で知的障害の方には関わ

りましたが、身体障害の方と関わるのはち

ゅうぶがほとんど初めてです。

山下：学生時代に同じクラスに障害児はいなかっ

たんですか？

齊城：私は、滋賀県の湖南市出身で、保育園の時

にクラスに一人、なんらかの障害がある子

がいたのと、小学校の時も校内で1人2人

ぐらい居ました。

山下：その子と遊んだりはしなかったですか？

齊城：そうですね。見かけるぐらいでした。障害児

学級もありました。実家の向かいに住んで

いるご家族のお父さんが車椅子ユーザー

でした。挨拶するぐらいでしたが、大学生

の時に、地元の就活フェアに行ったらそ

の男性に出会って、滋賀県の大きな障害者

団体の代表の人だということを知ったん

です。それまではただのお向かいさんだっ

たのが、そこで初めて、こんな身近に

障害者の人がいたんやと思いました。

山下：身体障害の方と接するのが、ちゅうぶに来

てからということですが、最初どんな感じ
でしたか？

さい き げん ごしょうがい かた はっせい み ぶ
齊城：言語障害のある方や、発声ができず身振り
て ぶ い し ひょうじ かた せつ とし
手振りで意思表示する方と接する時のど
きどきかん はじ かん はじ かん
きどき感は始めありました。この方の意思
を本当に聞き取れるか、読み取れるか、と
いふあん じぶんいがい ふつう
いう不安、自分以外のスタッフが普通にコ
ミュニケーションをとってるのが不思議
でしかたなかったです。

やました いま
山下：今ではどうですか？

さい き ふあん ふ と きらく
齊城：不安は吹き飛んで気楽にコミュニケーション
と かか かか
ンを取れています。関われば関わるほどそ
のかた おも わ かか
の方への思いが湧いてくるし、関わること
へのハードルは低くなってきました。
ひとりひとり かいわ たの おも
一人一人と会話するのが楽しいと思えて
いるし、大阪では障害者の人を街でよくみ
かけますね。

やました おおさか しゅっしん し が けん
山下：大阪では、ということですが、出身の滋賀県
しせつ はたら ち ば けん しょうがいしゃ
や、施設で働いていた千葉県では、障害者
み
は見かけませんでしたか？

さい き み すく し が
齊城：見かけることは少なかったです。滋賀や
ち ば しょうがいしゃ み
千葉とかで障害者を見ると「おっ！」って
なっていました。大阪は当たり前のように
まち しょうがいしゃ そんざい
街になじんでいますね。障害者という存在
まちが みちか そんざい
が間違いなく身近な存在になりました。も
しょうがい くく
はや障害という括りってなに？と。
しょうがいしゃ けんじょうしゃ さかいめ
障害者と健常者の境目もよくわからんな
とおおさか
と。そのくらい大阪やちゅうぶにいますと
しょうがいしゃ そんざい し ぜん
障害者の存在は自然になってきました。

やました しょうがいしゃ かか とし だいじ
山下：障害者と関わる時に大事にしていることは、
なんですか？

さい き し ぜんたい だいじ
齊城：自然体でいることです。大事にしていると
り そう ちか じぶん あいて
うか、理想に近いです。自分と相手がそ
れぞれもっているペースが合わさって、
どくとく ふうきかん ば
独特の、オンリーワンな空気感がその場そ

う おも
の場で生まれたらいいなと思います。あと
たにん くら
は他人と比べない…ようになれたらいい
おも しょうがいしゃ かか
なと思います。障害者と関わって、まだま
けいけん あさ まな
だ経験が浅いのでいろんなことを学んで
いきたいです。



び わ こ はん せいかつ かい ごあか
琵琶湖畔で生活介護赤おにメンバーと
しょくじちゅう
食事中！

じゅうど たか しせつせいかつ ～自由度の高い施設生活～

やました しせつ
山下：ありがとうございます。では、なぜ施設を
やめて、ちゅうぶで働こうと思ったのか、
きっかけはなんですか？

さい き しせつ く せいやく かん
齊城：施設で暮らすことの制約はひしひしと感じ
ていました。勤務を終えたら私は自由に行
きたい場所に行けるし食べたいものを食
べれるけど施設のお年寄りとは決まった生
かつ なか す
活リズムの中で過ごしていかなくてはな
らぬ。自分の生活と施設の利用者との
せいかつ くら かん
生活を比べてどこかうしろめたさを感じ
ていました。うしろめたさというのは施設
きんむじだい
勤務時代のキーワードでした。

やました しせつ せいかつ まいにち き へんか
山下：施設の生活って毎日決まっていって変化がな
いんですよね。

さい き かぎ へんか
齊城：そうなんです。だからできる限りの変化を
しょういん くふう かぎ
つくろうと職員それぞれが工夫して飾り
つけをしたり、季節の献立を立てたり、
なつまつ しせつ
夏祭りをしたりしていたけれど、施設にあ

る人員や資源では限界はあると思いまし

た。やっぱり望む人は全員地域で暮らせる

ことが本来あるべきだと思いました。自分

も地域で暮らす人に関わり、それを望む人

のチカラになればたらと思ひ転職先は地域

生活を軸にちゅうぶを選びました。

やました 山下：今回は、施設のことがテーマなのでお聞き

しますが、6年前に相模原障害者施設殺傷

事件が起きましたが、事件のことはどこで

知りましたか？

さい き 齊城：大学4年生の時でした。障害者福祉論とい

う授業を受けてて、その先生がものすごく

ショックを受けてたのは憶えてます。事件

があった次の授業で、もうめちゃくちゃシ

ョックを受けていました。あんまり感情を

出さない先生だったんです。

やました 山下：ちゅうぶに来て相模原事件のことを聞くこ

ともあると思うんですが、今、改めて思う

ことはありますか？

さい き 齊城：植松被告の考え方を支持する人がSNS

上で一定数いたというのが大変なことや

なと思います。私は植松被告の優生思想に

は違和感を感じますが、それは自分が

障害者福祉の世界に身を置いてるから、

障害者の人権について考える機会が自然

とあるからというところがあると思いま

す。何が正しくて何が正しくないか、正義

と差別、それを見極める力や倫理観は、も

ともと個人に備わったものじゃなくて、周

りの環境や人につくられていくものやな

と、ちゅうぶに来て特に思います。だから

植松被告の考え方を支持する人を一方的

に責めたり、自分の中に優生思想の考えが

ないと思うことはできません。あと、

津久井やまゆり園に入居してた障害者達

が地域で暮らせていたら、あの事件は起こ

っていなかったという声も聴きます。

やました 山下：外部との関係が遮断されるというのはよく

ないですね。

さい き 齊城：そうですね。私が働いていた施設でも

自由は制限されてるなど感じていたの

施設では暮らすけど、好きな時に外出でき

たり、もうちょっと、職員体制が整って

いたら、1対1で外出するとか、そういう

「自由度の高い施設生活」みたいなものが

出来たらいいのかなと思います。そのため

には、今の施設の制度や仕組みそのものを

変えることが必要かもしれません。

やました 山下：仕組みを変えていくには、当事者が声を挙

げていく必要があると思います。それでは、

施設で働いていた頃のことを教えてください

さい。なぜ高齢者施設を選んだんですか？

さい き 齊城：初めは働く場所は施設でも在宅でもどちら

でもいいなと思っていました。とにかくだ

れかの暮らしに関われたらなと。東京で

FACE to FUKUSHIという就活フェア

があって、そこに全国の面白い、斬新な取

り組みをしている団体が集まっていて、そ

こで千葉県で活動しているある社会福祉

法人を知りました。

やました 山下：幅広く福祉分野のいろんな団体を見てる中

で、介護いいなあとと思ったわけですね。

さい き 齊城：そうですね。高齢者介護に、ときめきを感じ

て選びました。千葉の法人には、雰囲気

や考え方に惹かれて就職しました。そこ

が施設介護を中心にやっていたので、施設

で働くことになりました。大学では社会

福祉について学んでいましたが、社会保障

制度のことや相談援助についてがメイン

だったので介護は未知の領域でした。

ちよくせつかか ひと あさお た
直接関わることとか、その人が朝起きて食
べてお風呂入ってトイレ行ってみたいな
せいかつじょう さいしょうたんい どうさ かか
生活上の最小単位の動作に関われるのが
いいなと思いました。

やました いま じっさい かいご はい
山下：今も実際に介護に入ってくれていますね。
ありがとうございます。施設では、具体的
しごと
にどういう仕事をしていましたか？

さい き ねん
齊城：はじめの2年はグループホームとショート
ステイで、あとの2年はデイサービスで働
きました。デイサービスでは朝夕の送迎と、
につちゅう たいそう
日中のレクリエーション、カラオケや体操、
づくり にゅうよくかいじょ
おやつ作り、入浴介助などをしていまし
た。ショートステイは、家族が旅行にいく
りょう かつ つき ほんぶんいじょう
ので利用する方もいれば、月の半分以上
れんぱく かつ かつ
連泊する方とかいろんな方がいましたが、
ぎょうむじたい しせつ か
やっている業務自体は施設と変わりはない
しよく はいぜんかつ にゅうよくはいせつ
かったです。3食の配膳片づけと入浴排泄
かいじょ しゅうしんきしょうかいじょ
介助、就寝起床介助などです。

やました はたら かん
山下：働いていて、どんなところにやりがいを感じ
ましたか？何かエピソードはありますか？

さい き な ところ で き りようしゃ
齊城：慣れれば心のゆとりも出てきて、利用者
かか じかん ひ
と関わる時間も、その日にもよりますが、
うま と としよ
上手く取れるようになりました。お年寄り
かか す かつ ちから ぬ
と関わるのは好きです。肩の力が抜け、
き ど まわ め き しぜんたい かか
気取らず、周りの目を気にせず自然体で関
しせつかいご あたま つか しごと おも
われる。施設介護は頭を使う仕事やなと思
たと どうじ なに ふくすう こと お
います。例えば同時に何か複数の事が起こ
い ひと へ や かけ ひと
って、トイレ行きたい人、部屋帰りたい人、
てんとう みまも ひつよう ひと
転倒するから見守りが必要な人、などが
どうじ ば き ぬ
同時にいて、どうやったらこの場を切り抜
けられるか考えないといけない。どういう
じゅんじょ こえ か
順序でどういう声掛けをすればいいのか、
いつしゅん
一瞬で考えないといけないとか。

やました あたま かにてん ひつよう
山下：頭をいつもフル回転させておく必要があります

ますね。

さい き ふろ はい
齊城：そうですね。あとはお風呂に入りたくない
としよ としよ あたま つか
というお年寄りがいた時も頭を使います。
ひと はい き も
その人が入りたくないならその気持ちを
そんちよう はい りゅう なん
尊重するのか、入りたくない理由は何なの
たいちよう わる き も もんだい
か、体調が悪いのか、気持ちの問題なのか、
まえ ふろ
前お風呂でなんかあったんかな、お風呂
いがい ほんとう つた しゅちよう
以外になんか本当は伝えたい主張がある
かんが はい はい ほんにん
んかなとか考えたり。入る・入らない、本人
しんしん なに としよ
の心身にとって何がその時のベストの
せんたく いろいろかんが
選択なのかなとか色々考えさせられます
ね。でも、自分がここの施設に入りたいか
じぶん しせつ はい
というそれはないなと思いました。

やました じぶん はい おも
山下：自分が入りたくないと思うのは、どうして
ですか？

さい き へんか とぼ い おだ
齊城：変化に乏しいからです。よく言えば穏やか
おだ たんちよう く
ですけど、穏やかすぎたなど。単調な暮ら
ほう お つ ひと
しの方が落ち着く人もいるやろうけど。
しせつ く じぶん そうぞう
施設で暮らして自分の想像はつかない
じぶん そ ぼ おや しせつ はい
です。自分の祖父母や親が施設に入ってい
そうぞう
るのも想像がつかないです。



まえ しょくば どうりよう
前の職場で同僚と
く えんそう
バンドを組んで演奏しました。

ちいき じりつせいかつ つた
～地域で自立生活ができることを伝える～

やました じぶん は おや はい
山下：自分が入りたくない親に入ってほしくない
き も だいじ おも
という気持ちは大事だと思います。

さい き たにん はい ぼしよ
齊城：他人が入る場所というよりは、もうちょ

じぶん せいかつ おも
っと、自分もそこで生活すると思って、
じぶんごと しせつ げんじょう み してん
自分事としてその施設の現状を見る視点は
わす おも
は忘れたらあかんと思います。ただ、
しせつ はたら おもしろ い
施設で働いていて面白かったのは、「生きる」
みかた か
ということの見方が変わったこと。
しせつ い ひつよう にちじょうどうさ ささ
施設は、生きるために必要な日常動作を支
もくてき だいいち た
える目的が第一にあります。食べる、トイレ
ふろ はい こうれいしゃ
する、お風呂に入るなど。これを高齢者
ひっし まいにち
たちは必死でやっているなど。毎日これを
せい ね
やることで精いっぱいなんやなど。寝たき
ひと ふろ はい
りの人がお風呂に入るにはバイタルチェ
かんごし れんけい いるい ちゃくだつ すいぶん
ック、看護師との連携、衣類の着脱、水分
ほきゅう きかいよく じゅんぴ かくほ さま
補給、機械浴の準備、スタッフの確保、様
ざま だんかい へ にゅうよく
々な段階を経てようやく入浴ができる。そ
ういうことを目の当たりにしたりサポー
けいけん じぶん ふだんなにげ
トする経験をする、自分が普段何気なく
にちじょうどうさ じつ おくぶか
やっている日常動作が、実はすごく奥深い
おも
ものだと思うようになりました。

やました き しせつ
山下：そういうことに気づかせてくれたのは施設
けいけん
での経験だったということです。

さい き いま じゅうどうほうもん
齊城：そうですね。それは今やっている重度訪問
かいご に
介護にも似ているところがあります。
しょうがいしゃ かいご はい とし
障害者の介護に入っている時、ここでは
しせつ いま はい
施設みたいにしたらあかんなど。今、入っ
かいご しゅたい しょうがいしゃ
ている介護は、主体は障害者にあるので、
しせつ としよ じゅうどうでき しゅたい
施設は、わりとお年寄りを受動的で主体に
うご しょういん な
動いているのは職員だった。それに慣れて
ぜんぜん あたま つか
しまうとダメやなど。全然、頭を使うところ
ちが おも しょうがいしゃ き ほんにん
は違うと思います。障害者が決める本人
き かんが う わたし うご
が決めて考える。それを受けて私が動く。
ほんとう
というふうに、本当はしたかったけど、そ
つぎ
れをしてしまうと、まわらない。次のシフ
ひと よ じぶん
トの人にしわ寄せがいくから、自分がやり
かか かた しごと
たい関わり方、仕事でやらないといけない

かか かた わり き
関わり方は、割り切ってやっていた。こっ
つごう お つ しゅんかん
ちの都合を押し付けている瞬間はあった
おも
かなと思います。

やました しせつ はたら ひと わる
山下：施設で働いている人が悪いінではなくて、
しせつ しく か
施設の仕組みそのものを変えていかない
ぼく しせつはんたい こうしょう
といけないし、僕たちも施設反対と交渉で
うった こえ あ つづ
訴えています、声を挙げ続けることが
たいせつ おも さいご
大切だと思います。それでは、最後に
しょうがいしゃにゅうしよしせつ おも
障害者入所施設はなぜなくならないと思
いますか。なくしていくためにどうしてい
くのがいいと思いますか？

さい き しせつ いちばん かんたん こた
齊城：施設って一番わかりやすく、簡単な答え
おも しせつ
だからかなあと思います。むしろ施設しか
みち おも おやご
道がないと思っている親御さんも、いるか
ろうしょうかいご わだい
もしれない。老障介護も話題になっている
しせついがい ちいき じりつせいかつ
けど。施設以外にも、地域で自立生活がで
せいど
きるサービスや制度があるということを
ひろ だいじ おも
広めることが大事やなどと思います。

やました しごと
山下：これから仕事やプライベートでやってみ
いことはどんなことですか？

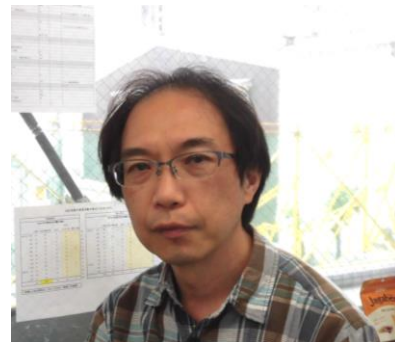
さい き しょうがいしゃ いっしょ りょうこう い いま
齊城：障害者と一緒に旅行とか行きたいです。今
しごと しょうがいしゃ がいいゆつ こうどう
は仕事で障害者と外出するとしても行動
はんい せま い
範囲が狭いので、いろんなところに行って
たいかん けいけん つ かさ
バリアを体感したり経験を積み重ねたい
えんげい ちょうせん
です！プライベートでは園芸に挑戦して
みたい。はな う
みたいです。ベランダに花を植えたり、
へ や なか しょうぶつ つ すてき
部屋の中に植物を吊るすのも素敵ですね。

やました きょう
山下：今日はありがとうございました。これから
しょうがいしゃ かか なか あら
も、ちゅうぶで障害者と関わる中で、新た
はっけん き もと おも
な発見・気づきを求めてほしいと思います。

さい き
齊城：ありがとうございました。

～～～Sevenメッセージ～～～

- なまえ ふじかわはるひこ
・名前：藤川治彦
- しよぞく ほうじん じ む きょくちょう せいかつかい ごじぎょうしよ かん りせきにんしゃ
・所属：法人事務局 長、生活介護事業所のサービス管理責任者
- しごと なんねんめ ねんめ せいしんしやうがいしやしえん かい ひ つ
・仕事は何年目ですか？：25年目です。精神障害者支援の会H I
Tが法人になる前の無認可作業所の時代に職員になりました。
- たんとうぎょうむ じ む きょくちょう たいそう かたが かいぎ しんこう しりょう
・担当業務：事務局 長という大層な肩書ですが、会議の進行、資料
の作成、連絡調整や法人運営上必要な雑多なことがらを主にやっ
ています。同時に現在は生活介護事業所のサービス管理責任者でも
あるので、事業所で当事者の人たちと話したり、オセロをしたりもしています。



○仕事をするまでに障害者と関わりはありましたか？

ハッキリとした関わりがあった訳ではありません。学生時代の同級生や後輩に障害を持った知り合
いはいましたが（それでも知り合い程度）、特に「障害者」として意識したことはありません。思えば
多分、身近にも障害者がいたはずなんでしょうけど、見えてなかったのかもしれない。学生時代は
「福祉」「障害者」などの分野に関心がなくてボンヤリと「そういう世界がある」くらいにしか思っ
ていなかったように思います。

○福祉の仕事に就こうと思ったきっかけ

先述のように学生時代には全く福祉分野に関わっていなかったのも「福祉の仕事に就こう」とハッ
キリと思ったことはないのです。学生時代の友人が精神科診療所のワーカーとして働いていて、生野区
で新しい作業所（懐かしい響きですね）が開設されて「アルバイトを募集するから、おいで」と言わ
れたのが働き始めるキッカケです。もちろんその頃は障害者についても、福祉についても何も知りま
せませんでした。「作業所」と聞いても何の事か判りません、思えばその友人もちちゃんと説明してくれな
かったのですけど。「なんかよう判らんけど、とりあえず行ってみるか」くらいの軽い気持ちで面接にい
きました。良く判らないまま週3日のアルバイトで働き始めて、半年くらいたって常勤職員になり
ました。牧歌的な時代だったなあと思います。それと当時は精神障害の作業所に若い男性が就職する
ことがとても少なかったのも、周りの人たちからよく可愛がってもらって、大切にしてもらいました。

○精神障害者の置かれている現状（関わり始めた当初と今の変化）

いくつか思うことがあります。未整理な部分も多いですが・・・。

まず精神障害や精神疾患に対する「敷居」が部分的には低くなったように思います。うつ状態や精神的
な失調を多くの人が経験したり、芸能人の体験談がメディアで取り上げられたりして、昔ほど特別
な事ではなく身近な事になりつつあるかなと感じます。また精神障害の人は精神科医療との関わりが深

いのですが、昔は「精神科に通院する」というのはなかなか敷居が高くてコッソリ通院していたり、
そもそも診療所（クリニック）の数が少なかったりでした。でも今では精神科の診療所も街中に沢山あ
って、社会的にも受け入れが進んできていて、ちょっとしんどくなった時に医療に繋がりがやすくなっ
たり、「通院していること」を言いやすくなったりしてきていると思います。

僕が入職した頃は精神障害者は全国で200万人くらいでした。それが今は400万人を超えています。
統計の方法もあるのですが、20年で倍になったわけです。これは精神疾患を患う人が増えた、と
いうより「敷居」が低くなったことで精神障害として数えられる人が増えたということじゃないかと思
うわけです。福祉サービスの面でいうと自立支援法ができる前は精神障害者が使える社会資源はごくわ
ずかで作業所（区ごとで1つか2つ）、グループホーム、支援センターくらいで、ヘルパー派遣もHIT
がモデル事業から取り組み始め、まだまだ広がっていませんでした。それが今は就労継続支援A・B
事業所、グループホーム、生活介護事業、地域活動支援センターと精神障害者が使える事業は種類も数
も大幅に増えています。精神障害者にサービスを提供してくれるヘルパー事業所もその頃からは想像
できないほど沢山になりました。選択肢が多いことは当事者にとって良いことなので、その意味では
精神障害者を取り巻く状況は良くなってきているはずですよ。一方で福祉サービスが整ったことで
「地域生活」の意味が変わってきているような気がします。制度上の多くのサービスを組み合わせること
が地域生活の前提のようになっていて、「生活すること」が「制度を使うこと」に飲み込まれてしま
うような（上手く表現できませんが）本当は違うんじゃないかな、というもどかしい感じが残ります。
そしてなかなか変わらない部分もあります。「精神障害者」として一括りにされて、敬遠や排除されが
ちな傾向があることは今も昔も変わりません。偏見や差別が無くなったわけでもありません。社会全般
でもそうですが、実は福祉や医療の世界でも「精神の人は・・・」と言われがちです。当たり前ですが
制度が整ってくることで「生きづらさ」の全てが解決しているわけではないと思います。

○なくならない虐待や権利侵害を防ぐためにどんな仕組みや研修が必要だと思いますか？

難しい質問です。簡潔に答えれば「外部の目をいれる」「見られていることを意識する」仕組みと思い
ます。事業所、施設、医療機関、教育機関など、どこでもですが「自分たちのルール」が通用しない、
第三者の目がとても重要で有効なはずですよ。定期的に他者の目にさらされる、そんな仕組みが必要でし
ょう。でもちょっと簡単に答えすぎな気がしますね。

実は最初はこんな書きだしで始めようとしていました。「・・・虐待や権利侵害が『悪いこと』『あって
はならないこと』なのはきっと皆が判っているはずですよ。では、なぜ起きるのか？」ここまで書いてみ
て、「アカン、難しい！」となってしまうました。力不足だな……。これを機会にもっと考えない
といけませんね。

○この仕事を続ける理由

改めて聞かれますが……。語弊を恐れずに言えば「面白さ」でしょうか。25年の中
でいろんなことを経験することになりました。「引っ越しの手伝い」とか「一緒に掃除の仕事に行ってみ

る」などの福祉の現場っぽいことから「裁判の証言台に立つ」「消防所や警察に関わる」などのできれば無い方がいいことまでありました。いろんな人と関わっていろんな事が起きるので、結果、いろんなことを経験したというか……。ひとつの職種（業種）でこんなに幅広いことが経験できるのはあまりないんじゃないかと思います。そんな経験を通じて、ちょっと大袈裟ですが「社会との関わり」「社会のありよう」のようなことを考えるキッカケになっていると思います。一般的な営利企業に勤めてるとなかなか考えない事かな、と。それと大きなことはやはり仲間がいることです。いろんな事をして、それを仕事として認めてくれる職場や共感してくれる仲間がいることは大きな支えです。

○この仕事の難しさ、やりがい（醍醐味）

まず難しさですが四点あげます。一点目は、何が正解か判りにくい、答えが一つとは限らないということだと思います。これは生身の人間が相手なので「ひとりひとりで違う対応が必要になる」、「同じ人でも状況が変われば違う対応が必要になる」、ということです。自分の対応が「これで良かったのかな」と悩むことしきりです。また数値化できたりマニュアル化できたりもしない訳で他のスタッフにどう伝えたらいいのかも難しいです。二点目は達成感が得にくいことでしょうか。「出来上がり、ゴール」のようなことがないので。自分自身で小さな目標のような、何かを設定しておかないと、しんどいですかね。三点目にこちららも人なので感情を刺激されることがある、です。こちらの意見をきいてもらえなかったり、嫌な思いをしたりすることもある、悪い意味で感情を刺激されることがあります。自分の感情について自覚して整理しないといけないのですが、これがなかなか難しいです。四点目に「楽しそうと思えば出来てしまう」ことです。精神障害者の支援はやればキリがない反面、やらなくても（支援しなくても）いけてしまうことがあります。次にやりがいですが「人に関わる」ことでしょう。難しさやしんどさの反対というか……。答えがないことやゴールが見えにくいこともやりがいや面白さに繋がるようにも思います。

○座右の銘

座右の銘というほどのものはないです。時々思い出するようにしているのは「実るほど頭を垂れる稲穂かな」と「情けは人の為ならず」です。

「実るほど……」の方は法人内で僕はかなりの古参になってきていて、一緒に働く人たちが僕に気をつかってくれるのと、法人外でも「事務局 長」という肩書が立派すぎて丁寧に対応されることが多いです。気が緩むとヘンテコな勘違いしそうなので気を付けています。

「情けは人の為ならず」の方も気を付けるようにしていることです。最近、感じることで社会が不寛容になってきているんじゃないか、ということです。多様性がいわれるようになってきたのと同時に不寛容さが目立つような気がするのです。もちろん僕もそんな社会に生きているので、僕自身もそうなのじゃないかと考えるわけです。つい必要以上に人に厳しかったり、気遣いが出来なかったり（しかもそれを正当化するような）……。それでは生きにくいと思うので、「情けは人の為ならず」を意識しています。

おすすめのお店紹介します

いんしょくてんへん 飲食店編

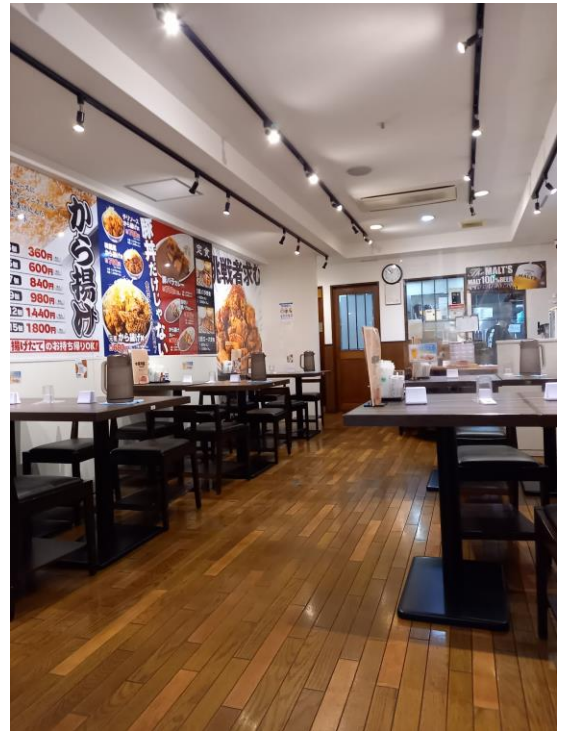
ちょう さ しゃ しゅうくるま めい
調 査 者 : 手動車いすユーザー1名
ちょうさばしょ がんそぶたどんや とん とん
調査場所 : 元祖豚丼屋 TONTON
じゅう しょ おおさかふおおさかしひがしすみよくこまがわ ちょうめ こまがわなかのしょうてんがいない
住 所 : 〒546-0043 大阪府大阪市東住吉区駒川4丁目11-24 (駒川中野商店街内)
でんわばんごう
電話番号 : 06-6657-7973
えいぎょうじかん じ じ
営業時間 : 11時~20時 (ラストオーダー 19時30分)
てい きゅう び ねんじゅうむきゅう
定 休 日 : 年中無休



みせ ばしょ おおさか たにまちせんこまがわなかのえき
お店の場所は、大阪メトロ谷町線駒川中野駅から
と ほ ふん きんてつみなみおおさかせんはりなかのえき と ほ ふん ばしょ
徒歩4分、近鉄 南 大阪線針中野駅から徒歩5分の場所
にあります。



いりぐち じどう
入口はフラットで自動ドアになっています。



入口を入って右側に食券機があり（タッチパネル式。専用のペンもありました。）
 店内は、4人掛けのテーブル7カ所、カウンター6席（どの席も移動できる椅子が設置されていま
 した。）
 通路も車いすユーザーが通ることができる幅は確保されています。
 豚バラと豚ロースのハーフ＆ハーフ丼を食べました。濃くなく薄くなくちょうど良い味で、おい
 しかったです。駒川中野商店街には、飲食店など、いろいろなお店がたくさんあります。みなさん
 も「車いすが4人入れるお店があるよ。」「店員さんが親切だよ。」「ここのお店おいしいよ。」な
 ど、おすすめのお店があったら是非、紹介してください。

